

経営協議会（平成 19 年度第 1 回）議事要旨

1 . 日 時 平成 19 年 6 月 20 日（水）15:00～17:07

2 . 場 所 事務局 3 階会議室

3 . 出席者 安田学長（議長）
小笠原理事、五十嵐理事、村井理事
井上委員、中村委員、森下委員、CASSIM 委員

欠席者 千原理事、佐々木委員

陪席者 佐藤教育研究支援部長、宗近経営企画部長、長川企画総務課長、中條
学生課長、奥田研究協力課長、大野学術情報課長、小林人事課長、河
野会計課長、荒井施設課長、辰巳企画総務課課長補佐、大下企画総務
課課長補佐、佐波監査室専門員、松山企画総務課企画・法規係長、小
野企画総務課企画・法規係主任

（配付資料一覧）

- 1 . 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会委員名簿
- 2 . 国立大学の法人化について
- 3 . 経営協議会(平成 18 年度第 3 回)議事要旨（案）
- 4 - 1 . 平成 18 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（抜粋版）（案）
- 4 - 2 . 平成 18 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
- 5 - 1 . 平成 18 年事業年度財務諸表
- 5 - 2 . 貸借対照表の概要（対前年度）平成 19 年 3 月 31 日現在
- 5 - 3 . 平成 18 事業年度奈良先端科学技術大学院大学の財務諸表等の概要
- 5 - 4 . 奈良先端科学技術大学院大学の減損会計について
- 5 - 5 . 各種会計の特徴について
- 6 . 平成 20 年度概算要求の概要
- 7 . 学生確保のための方策について
- 8 . 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学平成 19 年度理事・監事名簿
- 9 . 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学副学長・研究科長等運営体制
- 10 . 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考会議委員名簿
- 11 . 国立大学法人における会計監査人の選任について
- 12 . 平成 19 年度外部資金の受入れについて
- 13 . 平成 19 年度科学研究費補助金交付状況について

（席上配付物一覧）

- ・国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 G U I D E B O O K 2007-2008
- ・奈良先端科学技術大学院大学受験生のための大学案内 2007
- ・データで見る N A I S T（平成 19 年 6 月版）
- ・日経 B P ムック「変革する大学」シリーズ・奈良先端科学技術大学院大学

2007-2008

- ・奈良先端科学技術大学院大学創立 15 周年記念誌
- ・国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 第 1 期中期目標
- ・国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 第 1 期中期計画（抜粋）
- ・平成 19 年度 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 年度計画（概要）
- ・平成 19 年度 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 年度計画（抜粋）

議事に先立ち、事務局から配付資料の確認、議長から本学の概要及び国立大学法人の概要について説明がなされ、続いて、委員の紹介が行われた。

4．議 事

（前回議事要旨の確認）

「経営協議会(平成 18 年度第 3 回)議事要旨（案）」について、原案どおり承認された。

（審議事項）

（１）平成 18 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

議長から、平成 18 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について概要説明が行われ、審議の結果、承認された。

（２）平成 18 年度決算について

五十嵐理事から、平成 18 年度決算について、平成 18 事業年度財務諸表等に基づき、対前年度比及び主な増減要因も含めて説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

（３）平成 20 年度概算要求について

五十嵐理事から、平成 20 年度概算要求について、運営費交付金及び施設費補助金として要求する事項の要求額、概要等について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

（４）学生確保のための方策について

小笠原理事から、学生確保のための方策について、本学の現状を説明後、委員から意見をいただいた。

（主な意見は次のとおり）

・今の学生は最初から目的意識を持って大学に入学しない。目的意識を持って大学に入学する学生は、インターネットやベンチャーなど、華やかな世界に憧れた学生が大学に入学している。そういった目的意識を持った学生に対し、NAIST の良さをもっと知らせるべきではないか。そのためには、他大学と連携し、できれば学部の 1・2 年生を対象に学生が憧れる「最先端」に関する出前(特別)講義を積極的に行うような取組みを考えてはどうか。

・全入時代は日本社会が直面している大きな課題である。企業はいち早くそれを自覚し対応しているが大学は対応が遅い。APU の場合、学生の半分が留学生であるため、留学生の就職が一番難儀すると思っていたが、結果的には日本人よりも就職率が良かった。NAIST の場合、教育と研究の質の高さは保証されてい

るので、もっと他大学との単位互換を実施し連携を強化してはどうか。他大学との連携を通じて日本人学生や留学生をN A I S Tに誘導する方策を検討してはどうか。また大胆に国際入試の実施を試みてはどうか。日本はアメリカやイギリスに比べて学費が安いので、それをうまく利用できないか。ただ問題点は、留学生を受け入れるに当たり、日本語の問題がある。海外に日本語コースを設け、現地で日本語の魅力を高めるようにすれば、N A I S Tに留学する留学生が増えるのではないか。

- ・大学は案を考えるが、すぐ実行し、成果を得ていくという行動力が必要である。

- ・博士課程出身者は、扱いにくくて採用しにくい。学生が博士課程に入学する前に、企業と学生個人を結びつけておく仕組みが必要である。学生個人に対して委託研究をさせるという仕組みを設けてはどうか。そうすれば企業側も博士課程学生を敬遠するということがなくなるのではないか。

- ・大学院を持たない大学や修士課程しかない大学と連携・提携し、優秀な学生を獲得する仕組みを考えてはどうか。なお、優秀な学生には学費免除等のインセンティブを与える仕組みを考えてはどうか。

- ・今後、日本の大学は、再編・淘汰の時代に入る。優秀な大学であれば、他大学に先駆けてインターナショナルを高めるはずである。インターナショナルを高めるため、海外への交換留学やインターンシップを積極的に推進する工夫を行ってはどうか。

- ・N A I S Tの弱みを改善したところで、優秀な学生が集まるとは限らない。弱みに固執する必要はない。弱みの克服に精力を費やすよりは、強みを強みとするやり方で良いのではないか。

(報告事項)

(1) 役員について

議長から、本学役員について報告が行われた。

(2) 研究科長等について

議長から、本学研究科長等について、報告が行われた。

(3) 学長選考会議委員について

議長から、学長選考会議委員について報告が行われたとともに、次回の経営協議会開催日と同日に学長選考会議の議長を決めることが申し合わされた。

(4) 会計監査人の選任について

五十嵐理事から、本学の会計監査人としてあずさ監査法人が選任された報告が行われた。

(5) 平成 19 年度外部資金の受入れについて

五十嵐理事から、平成 19 年度外部資金の受入れ状況について報告が行われた。

(6) 平成 19 年度科学研究費補助金交付状況について

小笠原理事から、平成 19 年度科学研究費補助金交付状況について報告が行われた。

(その他)

議長より、次回経営協議会は 10 月 24 日 (水) で開催予定であることが述べられた。

以 上